

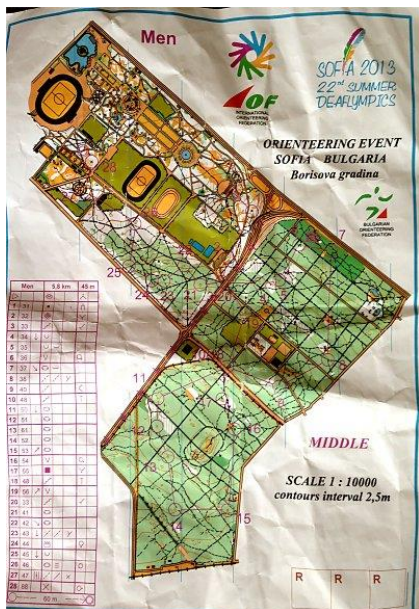


2位はリトアニアの28分45秒、3位はウクライナの30分57秒でウィニングタイムを凌ぐハイレベルなレースでした。

女子の1位はウクライナ、2位、3位はロシアが獲得しました。

### 田村選手のコメント(ミドルディスタンス)

森林部に小道が多く交差していて、藪の中でのコントロールが多かった。道回りか藪を切るか？瞬間的な選択判断はイマイチでした。元々、藪が苦手ですが、スピードも上がらない。ロシア他選手は藪でもスムーズに走っている。ここで差があるんだと思いました。



ミドルディスタンス競技で使用した地図

### ロングディスタンス競技

(2013年8月1日)

ロングディスタンス競技には28人がエントリーしました。

会場は「Bonsovi polqni」  
マップは1/12,500図。距離8,700m、高低差405m、コントロール数24個、ウィニングタイムは70~75分。制限時間は3時間。牧場地帯の草原部とかなりの急傾斜のある尾根を含むテラインでした。走力が要求されました。

田村選手は2時間45分45秒の21位で制限時間内に走ることが出来ましたが、不慣れの1/12,500縮尺マップとブルガリアの特有の複雑な地形に何度かコントロールの場所がわからなくなり、ルートを選択ミスをしたようです。もう少し適切なルートを選択をし、無駄な走行ルートを減らし、早く走れるようにするのが今後の課題だと思います。

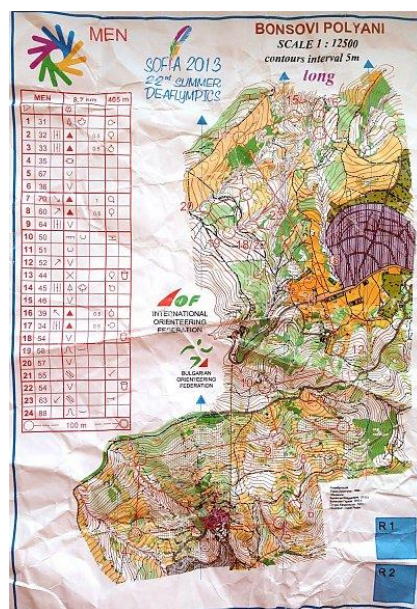
男子1位はリトアニアの1時間3分

21秒。2位はロシアの1時間7分5秒、3位もロシアの1時間15分34秒で、1位から3位迄がウィニングタイムと同等のタイムでゴールするほどの熱戦でした。

女子の1位、2位はウクライナ、3位はロシアでした。ロシアはスプリント、ウクライナはミドル・ロングディスタンスが得意といった具合でした。

### 田村選手のコメント(ロングディスタンス)

スプリント、ミドルディスタンス競技より本格的な地形でしたのもっと發揮して今まで以上にいい成績を取れるように努めてみたが、ブルガリアの特有の複雑な地形でのルートチョイスの迷いも出てしまい、経験量の差を感じました。とても悔しく思いました。



ロングディスタンス競技で使用した地図

### 競技を終えて

競技最終種目はリレー競技でしたが、日本からは選手が足りず、エントリー無しでした。次回は是非、リレー競技に出場出来るようにチームを作りたいと思います。

今回のデフリンピックにはスタッフとして田村選手をサポートしてきました。

田村選手は健闘しましたが、やはり本場欧州勢は強く、世界とのレベルの違いを強く感じました。しかし、これで終わりとはあきらめず、オリエンテーリングのナビゲーション技術を更に磨いて、2年後の世界選手権、4年後のデフリンピックには是非チャレンジしたいと思います。

(丘村:大阪 OLC)

### 田村選手のコメント(競技を終えて)

やはり本場欧州勢は強く、健聴者も同じですが、色々な自分自身の課題が見つかりました。メダル獲得者たちはオリエンテーリング競技が職業なので、週6回トレーニングをしています。このようにトレーニングをしないと厳しいようです。そのことに踏まえて日本チームは今後の方針を考えないといけないと思います。

### JDOA 代表 野中好夫より

私は再就職した関係でスタッフとして行くことが出来ませんでした。私の代わりにオリエンテーリング歴が少ないにも関わらず早くスタッフを引き受けた丘村さんには感謝申し上げます。

また、田村さんの出場に関してJOAの強化合宿に参加させて頂き、ありがとうございます。これから西日本地域は丘村さん(大阪 OLC)、東日本地域は私(野中)が担当しますので聴障者への普及にご協力お願い申し上げます。

日本デフオリエンテーリング協会  
代表 野中好夫